

平成 25 (2013) 年度 東北大学法科大学院入学試験

試験科目：刑事法（刑法）

【設問】

以下の【事例】に挙げられた事実が真実であることを前提にして、X及びYの罪責について論じなさい（特別法違反の罪は除く）。

【事例】

1 X (20歳・男性・身長 170 cm・体重 70 kg) は、友人Y (20歳・男性・身長 172 cm・体重 75 kg) と共に、「小銭稼ぎ」と称して、地下鉄S駅に設置されている自動券売機の硬貨釣銭返却口（以下、釣銭返却口とする）内部に接着剤を塗布し、後続の券売機利用者に対して払い出される釣銭用の硬貨を接着剤に付着させて捕捉したうえ、付着している硬貨を回収することを繰り返していた。

平成 21 年 3 月 5 日午後 3 時頃、XはYと「小銭稼ぎ」をしようと考え、Yの携帯に電話をかけたが、Yが電話に出なかったため、1人で行うことを決意し、S駅に向かった。同日午後 5 時頃、S駅に到着したXは、S駅の券売機を利用する客を見て、「これだけ人が自動券売機を利用しているなら、釣銭返却口に接着剤を塗って、ひっかかった硬貨を取ることができるだろう。見つかることもないだろう。」と考え、同日午後 5 時 10 分頃、左手中指の先に接着剤を付け、切符を買うような素振りをしながら、S駅 3 番券売機の釣銭返却口にそれを塗りつけた。

2 自動券売機の背後に設置された室内で防犯カメラの映像を見ていたS駅駅員V (32歳・男性・身長 178 cm・体重 78 kg) は、同日午後 5 時 10 分頃、Xが3番券売機の釣銭返却口に何かを塗っていることを確認したため、3番券売機に急行した。Vは3番券売機に到着すると、Xの背後に立ち、Xの左肩を右手で軽く叩きながら、「何をやってるんですか。」と声をかけた。Vに声をかけられ、「しまった。」と思ったXが、Vの横を走って逃げ去ろうとしたため、VはXを追いかけた。Xは 80m程度走ったところで、Vに追いつかれ、Vに地面に投げつけられた。Vが仰向けに倒れたXに馬乗りになり、「何で逃げるんだ。お前、何をしてたんだ。」と言ったところ、Vの背後からYが近づき、Vの背中を右足で強く 1 回蹴った。Vは「うっ。」と呻くと、Xに馬乗りになったまま、背中を押さえてうずくまった。Vの様子を見たYが、Xに対して、「おい、逃げるぞ。」と言ったところ、Xは「おう、Yか。分かった。」と答えて、自分に馬乗りになっているVの胸付近を両手で思い切り突き飛ばした。Xに突き飛ばされたVは、Xに馬乗りになっている状態から、右後方に仰向けに転倒して、右後頭部を地面に強打した。その後、XとYは、その場から走り去り、2人でXの自宅アパートに戻った。

3 アパートに戻ったXがYに対して、「お前、何であそこにいたんだよ。駅員がいきなりうずくまったから、何が起こったんだと思ったぜ。」と言ったところ、Yは「たまたま、S駅の券売機の辺りを歩いていたら、お前が『小銭稼ぎ』をしているのが見えたんだよ。そしたら、駅員がお前のほうに近づいて、何か話しかけたから、『やばいな』と思ったんだけど、お前、突然逃げ出しただろ。でも、駅員に追いかけて、結局、捕まっちゃったから、『助けてやらないと』と思ってな。」と答えた。それを聞いたXは「サンキューな。助かったよ。」と言った。

4 なお、Vは上記2のXの攻撃により、頭部に全治1週間の打撲を、Yの攻撃により、背中に全治1週間の打撲を負った。